

2015年5月30日

NPO東北みらい大学 講演

「2030年代 冬季オリンピック：パラリンピック盛岡招致の実現を！」

講師：鈴木一夫(盛岡市議会議員)

会場 岩手大学

<http://www.suzukikazuo.com/>

「冬季オリンピック：パラリンピック盛岡招致について」

- 1 現状
- 2 盛岡で開催する場合の期待と課題
- 3 問題提起

## ＜現状＞

### ① 競技内容

#### 冬季五輪の基礎知識

#### 大会本部

国際オリンピック委員会 1894 年設立

I O C (International Olympic Committee) スイス ローザンヌ

J O C (Japanese Olympic Committee 公益財団法人 日本オリンピック委員会)

東京都渋谷区

#### 競技内容

スキー(アルペン)

滑降、スーパーG、大回転、回転、複合

フリースタイル

モーグル、エアリアル、ハーフパイプ、スキークロス、スロープスタイル

スノーボード

パラレル大回転、ハーフパイプ、スノーボードクロス、スロープスタイル、パラレル回転

スケート競技

スピードスケート、フィギアスケート、ショートトラック、アイスホッケー、カーリング

ジャンプ

クロスカントリー

バイアスロン

ボブスレー

スケルトン

リュージュ

## ＜競技会場以外に開催都市が整備する施設について＞

開閉会式場

オリンピック選手村

放送センター

メディア村

## ＜開催費用＞

招致活動費

大会運営費

(下記は札幌市藤野リージュ会場)



## ② 世界の冬季五輪の情勢について

これまでは欧州2回、北米2回、アジア1回程度の輪番制で実施

2018年 韓国平昌

2014年 ロシアソチ

2010年 カナダ、バンクーバー

2006年 伊トリノ

2002年 米ソルトレイクシティ

1998年 日本 長野

1994年 ノルウェイ リレハンメル

1992年 仏アルペールビル

1988年 カナダ カルガリー

1984年 ユーゴスラビア サラエボ

1980年 米レークプラシッド

1976年 オーストリア インスブルク

1972年 日本札幌

1968年 仏グルノーブル

1964年 オーストリア インスブルク

1960年 米スコーパーレー

1956年 伊コルティナダンペッティオ

1962年 ノルウェイ オスロ

1936年 独 ガルミッシュバルテンキルヒェン

1932年 米 レークプラシッド

1928年 スイス サンモリッツ

1972年札幌→26年 1998年長野→20年 2018年韓国平昌→20年後？

2038年前後??

**アジアの輪番では日本で、そして盛岡で開催を！**

ただし、開催都市の財政負担の懸念から近年はヨーロッパの都市では敬えんする動きがある。

例 伊トリノ 五輪会場を撤去

仏アルベールビル 大会本部や選手村は空き店舗化（下記写真）

2026年大会については北京とカザフスタンのアルマトイのみここに札幌市が招致に名乗り

IOCも開催都市の分散化や二カ国での開催を認める方向で検討



フランス アルベールビルの冬季五輪大会本部 施設が有効活用されていない

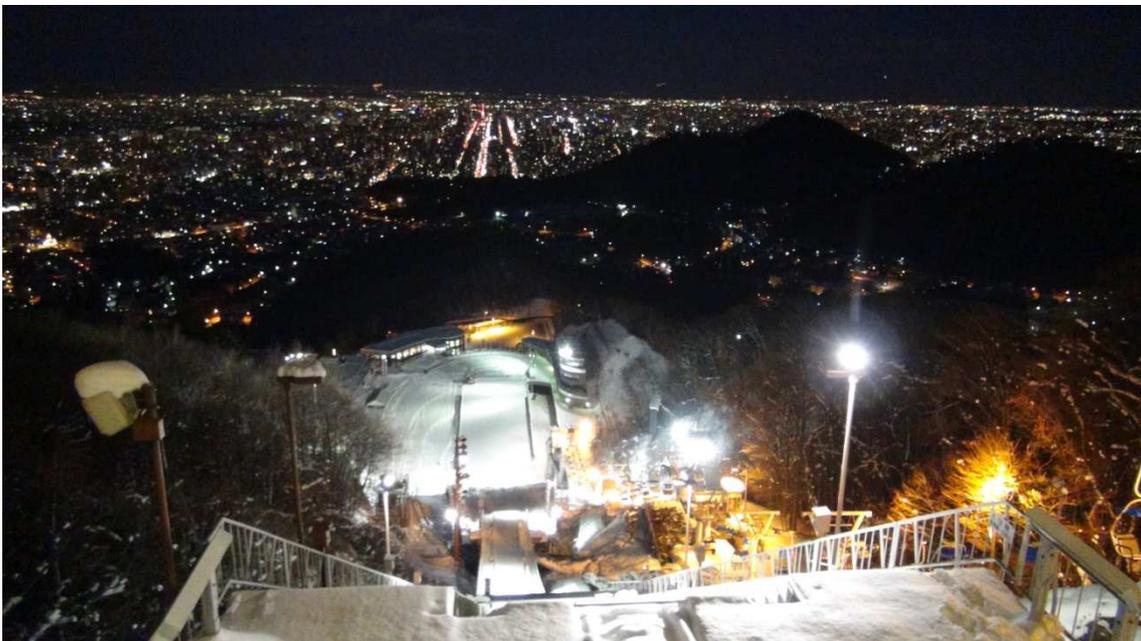


長野市では跡利用計画をしっかりと立てた対応をとっており、施設余剰感はない。

写真は、メインプレスセンターの現状。

隣接するアイスホッケー会場は体育館に改修に、放送センターは現在NHKになっている。

また、オリンピック選手村は公営住宅と社宅に転用されている。



札幌市の大倉山ジャンプ台。真正面に札幌市の歓楽街大通がある。

アジア発の冬季五輪開催地ということで、その後も好印象で国際的な観光客の増加の要因となっている。

## ① 1998年冬季五輪大会の招致活動の経験

この時は、長野市、盛岡市、旭川市、山形市の4都市が国内候補地として名乗りを上げている。

長野市34票、盛岡市9票、旭川市4票、山形市0票であり、盛岡市は落選。長野市で決定した経緯がある。

盛岡市が招致に失敗した理由を当時の盛岡市の最高幹部に伺うと

- ・ JOCから冬季五輪の調査以来が来たが、1年で提出しなければならず時間が足りなかった
- ・ 国際大会の経験がなかったことや、人脈において長野の層の厚さが上であった
- ・ 施設がなく、新規建設予定のものばかりであった

なお、当時盛岡市が要した招致費用は2億5000万円。

この長野市は1961年に一度招致活動を行った経緯があり、2度目の立候補で招致を達成した盛岡市は、市政始まって以来の国際大会招致だったのと、JOCから1年後までに盛岡招致における計画書の提出を求められるなど、時間がなかったことなどの理由により候補地にはいたらなかった。

当時の関係者が今日もいることから再び当時の経験も踏まえて活動の再開をすることは人脈的には浸透できる素地がある。

また、長野市を訪問（2014年10月）し、当時招致活動をした市担当者にお伺いすると、政治力が物を言ったという感想をもたれていた。

（下記写真は、今でも残る当時招致活動を行ったステッカー）



## ② 1993年アルペン大会の実績とその後国際冬季大会の継続がない

盛岡市は冬季五輪招致当時に冬季オリンピック招致活動とあわせて、アルペン大会招致の活動も同時並行的に行っていた経緯がある。

冬季五輪招致には国内候補地選定で失敗したものの、アルペンスキー世界選手権招致に成功して1993年に大会を開催する。

大会では、季節外れの雨が降るというアクシデントに見舞われたが、おもてなしのところで大会自体の印象は選手層にはよかった。

しかし、ここで盛岡市は燃え尽きたようで、その後各種国際冬季大会の開催や招致活動が行われておらず、継続性の問題や、都市戦略不在の課題も浮き彫りに。

盛岡は年8カ月は暖房器具を使用する寒冷地であり、寒さや冬を有効に活用することが地域活性化のカギであることはいうまでもない

(参考資料)

昭和63年11月30日

「冬季オリンピック招致運動の火を燃やし続けるための申し合わせ」

盛岡市助役 桑島 博

私共は、オリンピック冬季競技大会盛岡招致委員会総会の決定にもとづき、冬季オリンピック招致運動で示した市民、県民の盛り上がりをどのような形でこれを継承し、今後の街づくりや地域づくりに生かしていくか協議した。

盛岡冬季オリンピック招致運動は、盛岡市およびその周辺の優れた立地条件や恵まれた自然条件、そして県民のオリンピックへの熱意が高く評価されながら、これまでの実績や知名度その他の点でいくつかの問題点を抱え、JOC委員の理解を得るまでには至らなかった。

しかし、今後は、この優れた立地条件を再認識し、これを十分に生かし、

競技面あるいは施設面その他の条件を整備していくことが必要であるという認識にたち、さらには、各界各層が将来にわたって着実に基礎的條件の整備に努力していくことによって、冬季オリンピック招致立候補の機会が再び到来することを確信し、それぞれの立場でそれぞれの役割を果たしながら、あらゆる機会を通じて次のことを促進していくことを申し合わせた。

#### 記

- 1 1993年アルペンスキー世界選手権大会、第45回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会、昭和68年国民文化祭等すでに開催が決定しているイベントを成功させるために協力するとともに、スポーツ文化・芸術その他の分野の各種イベントの誘致に積極的に協力する。
- 2 冬季競技大会をはじめ、各種のイベント・大会等が円滑に開催できるように、競技施設や道路、宿泊施設、会議場等の関連施設の整備、充実に促進する。
- 3 アイスアリーナやスキー場の整備に伴い、これらの積極的な活用に努めるとともに、優秀な選手や指導者の確保を促進する。また、スポーツ人口の増大と市民、県民の健康の増進を図るため、県民スポーツの振興を図る。
- 4 高速交通体系と恵まれた立地条件を生かして国際大会の招致を促進するとともに、国際大会の開催地にふさわしい国際化を指向した都市づくり地域づくりを促進する。
- 5 以上の施策について行政、体育団体、経済界、市民団体その他各界各層に働きかけるものとする。

昭和63年11月30日

(財)岩手県体育協会会長名

盛岡商工会議所会頭名

盛岡商工会議所専務理事名

(財)岩手県体育協会理事長名

岩手県スケート連盟理事長名

岩手県スキー連盟理事長名

盛岡市助役名

盛岡市収入役名

③ 2026年大会に札幌市が招致に名乗りを示す

2014年11月に札幌市の上田市長（当時）は、2026年冬季五輪招致に立候補を表明。

2026年大会の立候補地は現在、北京とカザフスタンのアルマトイの二都市のみ。

大会招致費や施設整備費、維持費の懸念からヨーロッパの各都市は立候補を敬えん。

1972年が札幌で、1998年が長野、次は東北という期待。

また、広告代理店がある**県知事**選挙において公約案として冬季五輪招致を提案するものの保留に。ただし、時期を見てカードを切る可能性がある。

**新潟**も意欲を示す。

また新幹線の開業や高速道路の整備の時期も札幌

1964年東京五輪（東海道新幹線開業）

1998年長野五輪（1997年長野新幹線開業）

20××年札幌立候補（2031年春札幌新幹線開業）

<スケジュール>

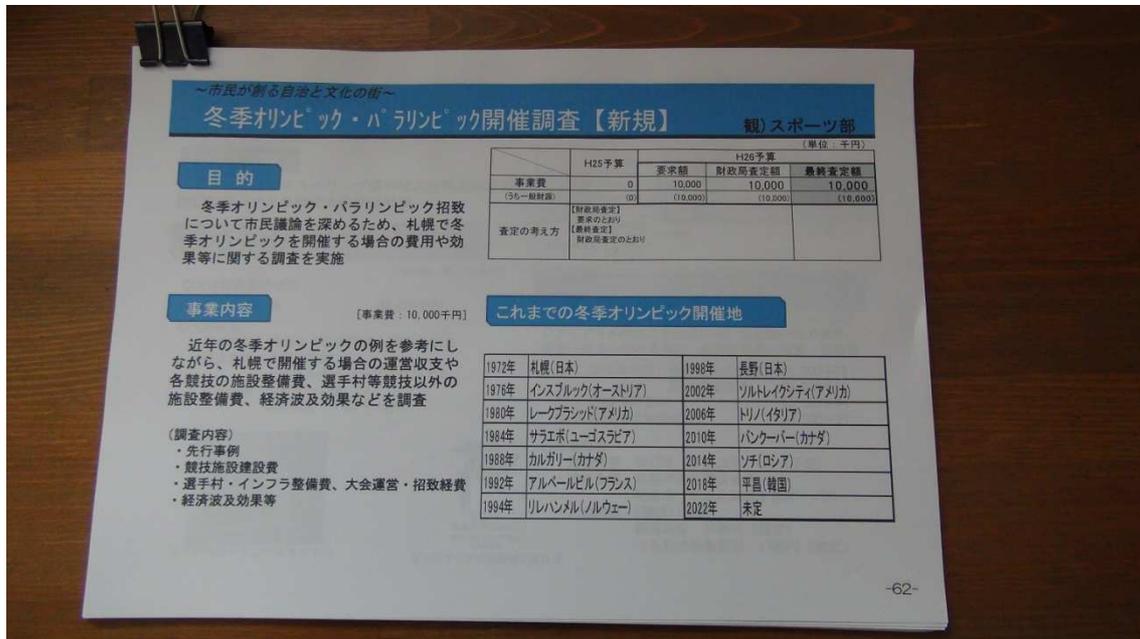
2016年国内選考

2017～2019年 招致活動

2026年 本番開催

札幌（1972年）→長野（1998年）→札幌（2026年に招致活動表明）

**次は東北の番であることを強力に表明したい！**



（写真は札幌市の平成26年度予算書 1000万円の調査費が計上されています）

※報告書も札幌市のホームページに掲載されております

<https://www.city.sapporo.jp/sports/olympic/index.html>

## 2 盛岡で開催する場合の期待と課題

### 1 期待

1 課題 その1 財政問題

2 課題 その2 施設や地形、気候

### 1 期待・効果

#### 経済波及効果

1998年長野大会の経済波及効果は、公共投資・スポーツ振興・観光・交流人口の拡大で2兆5000億円（八二銀行）

#### 都市ブランド

100年後でも知名度が残っており、交流人口拡大にとっては圧倒的な知名度は武器。前述の札幌における外国人観光客の入込の理由は、アジア発の冬季五輪開催による知名度が背景にある。

#### 分散開催

I O Cが開催地の分散化や2カ国開催など開催都市側の負担に対する軽減策を発表しており都市間JVによる開催が可能になった。

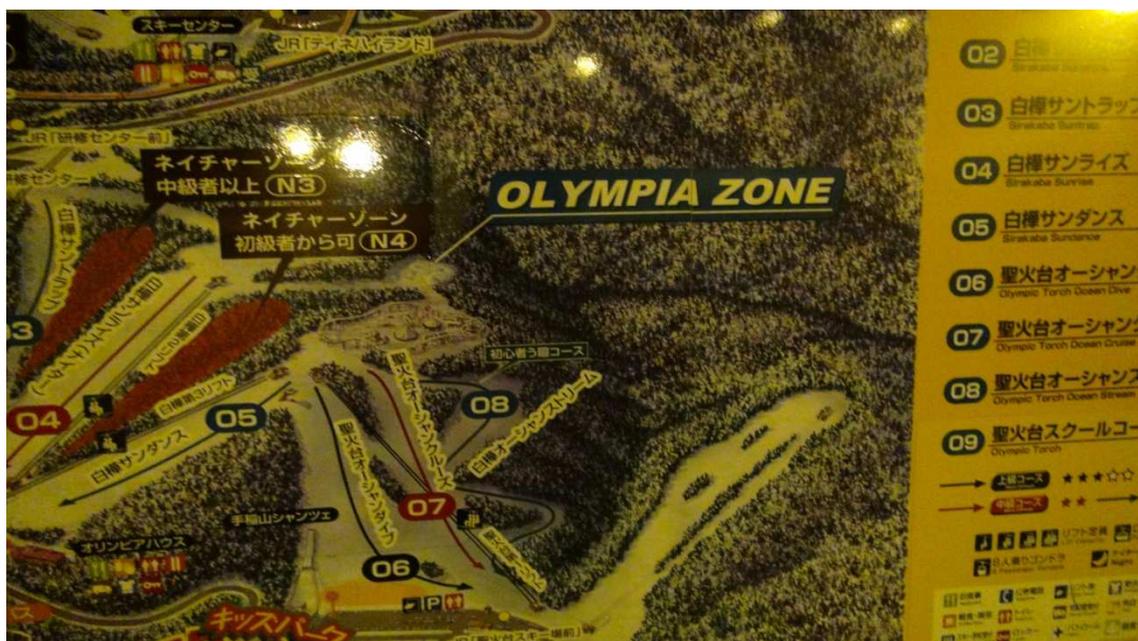
つまり、盛岡市単独で大会会場や施設整備からの各都市の施設を有効活用できること。

交通結節点として盛岡は新幹線が南北秋田方面や高速道路が青森・八戸方面に展開しており優位性がある。

#### 効果

2011.3.11震災からの復興を全世界に御礼する機会である。

（札幌市郊外のテイネスキー場：オリンピックを名乗ったコースがある）



## 2 課題

### ①財政問題

#### 公共施設を集約する時代における公共施設の新設における市民世論

しかし、この論点は追い風である。

開催を期待する 2030 年代は盛岡市内にある市営・県営施設も更新の時期

盛岡市役所は 1962 年（昭和 37 年）建設で既に 52 年経過。耐用年数 50 年を過ぎており

耐震補強工事を施しあと 20 年程度（2030 年代まで）使用。

市役所建て替え費用は 100 億円と見積もられる。

もとの 100 億円の施設建設を行うのであれば、この施設をまず冬季五輪本部として活用して、大会終了後は市役所として活用することで、跡利用を有効活用や観光施設として外貨の獲得が期待できる。

市営球場や県営球場も 2030 年代には建て替えの時期。2つある必要はなく、1つにして開閉会式場のできる施設を市・県一体となって建設を図り、屋根（ドーム）を設置する。

盛岡市の公共施設集約化の試算では、40 年間で 2339 億円の財源不足を生じる試算も出されている。施設自体が余剰感があることは否めない。と同時に、施設の老朽化による集約化・再編成を行う機会でもある。おおよそ 30%の施設の削減を達成する必要がある。ただし、学校など大きな面積の集約化でこの削減は一気に進む可能性もある。

青山にある県営体育館、みたけの県営スケート場も 2030 年代には施設改修の必要性がでる。

またフィギアスケート会場としては、盛岡市としては既に冬季五輪を想定してアイスアリーナを建設している。

長野市では跡利用計画を綿密に策定しており、施設余剰感は生じていないという市担当者の談がある。

結論として、いまあるものを維持して、さらに新たに施設をつくるのではなく、今あるものを集約して、かつ、新陳代謝をすすめることでコンパクトシティの実現を図りながら、都市施設の再編を五輪開催を契機に一気にすすめる。

政策の上位に冬季五輪招致を構想することにより、街づくりにおける集約化と交通体系の再編成や新交通システムの導入などを図ること、民間資本の導入など近年採用されている施設整備手法の導入を図る。

また八戸市ではスピードスケート開催用の屋内 400 メートルダブルトラックの新設が 95 億円を検討されている。他都市の施設活用は積極的に検討することとする。



(現在の盛岡市役所 20年後に100億円の規模で新築される)

### ③ 地形や気候について

近年の国際大会の基準がかわり、高低差の確保が必要とされている指摘。

特に岩手県では滑降競技の傾斜がとれないという指摘がある。

この指摘については、地形図や実測の調査結果など要検討とする。

先ほどの指摘であるスピードスケート施設は八戸市で建設予定であることから他地区の施設の活用による開催も想定できる。

また1993年アルペン大会では不幸にも雨が降って大会運営に苦慮した経験をもつ。

温暖化、言い換えれば気候変動の振れ幅が大きく2030年代で寒冷な気候であるかは見通しができない。ただ、ヨーロッパや韓国平昌では、人工降雪機での対応を想定していることを申し添えておく。

### 3 問題提起

#### 「地方の現状と夢」

高齢化・人口減少・限界集落という言葉で表現をされる地方。

この時代だからこそ、夢をもち希望を高く持つことが必要。

外国人観光客が 2000 万人来日する時代に東北 6 県あわせた観光客はわずか 1%。

東京から富士山、京都奈良などゴールデンルートに人が流れ、東北全体・盛岡には見向きもしない現状があります。

このままでは「東北半島」になり下がります。

冬季五輪招致を実現して、盛岡のブランド力や東北の底時からを世界に示していく必要があります。

#### 冬季五輪以外の「国際大会の招致」

五輪よりはひとまわり小さいクラスの大会(例 アジア冬季国際大会)の招致を検討することからはじめて現実感をもつことも。また、2020 年東京五輪の合宿地招致活動は既に盛岡市でも活動を活発化させているが、その成功や、国際大会クラスの選手の合宿地の受け入れなど、1998 年招致活動で失敗した点を生かしていくことも必要。

・すそのを拡大するために生涯スポーツの促進など市民スポーツの底上げ  
など健康とスポーツについての促進を図ることも検討にあたいする

#### 「冬季五輪開催の招致活動は 8～12 年前」

2030 年→招致活動は 2018 年 (3 年後)

2034 年→招致活動は 2022 年 (7 年後)

2038 年→招致活動は 2026 年 (11 年後)

都市施設の新陳代謝を計画的に行うためには、計画性が必要。

#### 2030 年代といっても招致活動でみるとあと 3～11 年

つまり、施設計画や招致活動、受入体制の強化など交流人口の拡大を進めるためには 3～11 年後ですと正直時間がないのが実態。

盛岡市は今年から 10 年間の期間をさだめた最上位計画である総合計画を策定しました。

その変更手続きや施設更新計画を考えると悠長に構えているときではありません。

1998 年招致活動で長野に敗れた原因(施設、体制、時間切れ)を繰り返さないためにも計画的かつしたたかに行動することが必要です。